

◆研究2【補充指導】の実践イメージ

※新規：3,4年算数科少人数指導＋タブレット端末の活用
(デジタルドリルの活用)

※新規：1,2年におけるデジタルドリルの活用

①朝学習：ベーシックタイム(15分)におけるデジタルドリル
(ナビマ、タブレットドリル)の活用法

②土曜授業：パワーアップタイム(45分)におけるデジタル
ドリル(ナビマ、タブレットドリル)の活用法

◆そもそも補充指導の目的は何か？

「**基礎・基本的な力を定着させ、発展的な力を育むこと**」

=全員に出す「**共通課題**」と本人の意欲や学習状況に応じて進める
「**自主課題**」から構成される。

※アナログ(プリント等)学習とデジタル(デジタルドリル)学習の比重は？

※学年の発達段階で使い分けの方がベターか？

※定着場面、問題練習場面で使い分け方があるのか？

アナログとデジタルを組み合わせた補充指導の場



【朝学習】ベーシックタイム(火曜日、木曜日毎週 15分)
15分×35週×2曜日=1050分/年(漢字の読み書き・計算問題等の定着)

【補充指導におけるアナログとデジタルの使い分け方について検証】



【土曜授業日】パワーアップタイム(毎月1回1校時 45分)
45分×10月=450分/年(漢字の読み書き・計算問題等の定着確認や習熟を図る)
土曜授業の学力補充指導での複数体制(担任、指導方法改善、理専、音専、教頭)による指導

学習場面におけるアナログとデジタルの使い分け方

教師は、子どもの学習状況からアナログとデジタルによる学習指導の使い分け方を判断する

指導方法 学習場面	アナログによる 学習指導	デジタルによる 学習指導	児童生徒の 学習状況 (基礎基本の定着 度、活動内容等)
授業 補充 家庭 学習	基礎基本の定着	選択・順序・ 組合せ方	C:不十分 B:概ね良好 A:良好
	基礎基本の定着	選択・順序・ 組合せ方	C:不十分 B:概ね良好 A:良好
	基礎基本の定着	選択・順序・ 組合せ方	C:不十分 B:概ね良好 A:良好

学習対象の把握
見学
観察
鑑賞等

学習対象の把握
見学
観察
鑑賞等

学習対象の把握
見学
観察
鑑賞等

【補充指導】学習目的に応じたアナログとデジタルによる学習指導の基本的な使い分け方



【補充指導におけるアナログとデジタルの使い分け方に係る仮説】

- 知識を覚えたり、深く考えたりする力を育てるとき→アナログの漢字帳や読解力課題プリント等の紙で取り組ませることが効果的
- 学力が定着しているかの確認・見届けやさらなる習熟を図るとき→デジタルドリルなどの教材を活用することが効果的で効率的
- ①と②のどちらに重きを置くか？どのような流れで行うか、その学習状況を見極めて、使い分けられる力を教師は養うことが重要

【子ども・教科・学級レベル】学習課題の重点の置き方

子ども・各教科・学級・学校全体の平均通過率(上位層:平均以上、中位層:平均並、下位層:平均以下)に応じた学習課題の与え方は？

課題の種類	【基礎・基本】 読み・書き・計算等の 知識、理解、技能等 A問題(主に知識)	【応用力、活用力】 自ら考える力 思考・判断・表現 B問題(主に活用)	【その他】 家庭・地域との連携 学校の教育環境等
上位層 子ども・ 教科・ 学級	○	◎ 重点	◎ノーマメディアタイム、早寝早起き朝ごはん ◎うら読 ◎家庭学習ノートの有効活用
中位層 子ども・ 教科・ 学級	◎ 重点	○	◎スポ少、地域スポ、習い事との両立 ※家庭学習の課題も個に応じて与える。
下位層 子ども・ 教科・ 学級	◎ 重点	※どれだけ個別最適化された学習課題を与えられるか。	◎共通課題:基礎問題 ◎個別課題:応用問題 ◎自主課題 ※デジタルドリルの活用